



## 来週の投資戦略（8/3-7）

### 決算と為替に注目

2026年8月2日

小松 徹

#### 注目事項 ― 見所

企業決算 ― トヨタ自動車（7203）、ソフトバンクグループ（SBG、9984）など。  
8月7日、7月の米雇用統計 ― 非農業部門雇用者数、前月比85千人増？

#### 株式市場見通し

先週は日米で材料が多く、市場が荒れた。火曜日にAI・半導体株の投げ売りが続き、その資金で内需株を買う動きが強まった。ところが、日米のAI・半導体企業がアナリスト予想を大きく上回る好決算を発表すると、それら銘柄群に大量の資金が戻った。金曜日にイビデン（4062）、パナソニックホールディングス（6752）、キオクシアホールディングス（285A）などがストップ高で引けた。木曜日に米国為替市場で日本政府が円買い・米ドル売りの為替介入を実施、日本円が対米ドル5円円高となり、金曜日にも同様の介入をした。週間では、日経225が0.4%、TOPIXも0.2%下落した。

来週のわが国の企業決算は月曜日の伊藤忠商事（8001）、三菱UFJフィナンシャル・グループ（8306）、火曜日の三井物産（8031）、三菱重工業（7011）、トヨタ、水曜日の日本郵船（9101）、スズキ（7269）、メルカリ（4385）、太陽誘電（6976）、木曜日の古河電気工業（5801）、任天堂（7974）、SBG、金曜日の大林組（1802）、フジクラ（5803）、INPEX（1605）、リクルートホールディングス（6098）、三井不動産（8801）、KDDI（9433）など。このうち、トヨタの4-6月期営業利益が前年比9%減と予想されているが、年間では4%増が期待されている。今回会社は見通しを変えないだろう。SBGの4-6月期一株当たり利益（EPS）が前年比77%減になり、年間も80%減と予想されている。オープンAIなど非上場企業の株式評価が下がっているか。

-米国企業ではスペースXが火曜日に上場後初めて発表する。4-6月期は赤字だが、7-9月期に黒字転換するとアナリストが予想。来年度に年間黒字になると予想しているが、その時でも株価収益率が165倍。多くの投資家は利益ではなく、夢を買っている。なのでこのような評価は関係ないかもしれない。先週夜、東京から広島で在来線に乗り換えた時、女性グループが株式投資の話をしていて、上がったのは最初だけだと言っていたが、まさかこんな遠い所でも夢を見ている人がいるかと驚いた。初値比28%安。

最後に日米政府の円買い介入について。高市政権の財源無き消費税減税実施宣言が木曜日午後6時。金曜日午後3時半に日銀の植田総裁の記者会見。海外投資家にとって、格好の円売り材料だ。そこで、考えた。米国を巻き込んで先回りして為替介入しよう。日本政府は円買い・米ドル売り、米国政府は円買い・ユーロ売り。しかもベッセント財務長官は色々仕掛けた。「円は割安」と言い、為替介入メモを記者にのぞき見させた。EUの消費者物価も2.8%まで上昇している。繰り返せば、ユーロ安が問題になる。これで、高市氏はベッセント氏に大きな借りを作った。次回の日銀の利上げは早まりそう。ただし、米国ではウォーシュFRB議長の曖昧戦略という難問も浮上。

#### KPAの投資戦略

| ロング（買い）       | ショート（売り）      |
|---------------|---------------|
| 好財務の割安株、今期増益株 | 高PB低位株、高PE新興株 |

（注）ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



日経225



TOPIX





米ドル・円相場



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。本レポート執筆時点で、KPA役員あるいはKPAのお客様は三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱重工業、スズキ、大林組、INPEX、リクルートホールディングス、KDDIを保有しています。

©2000－2026 Komatsu Portfolio Advisors Co., Ltd. All rights reserved.